

一ノ関駅東口イノベーション構想 NovAccel(ノバセル)
の狙い 放射性医薬品→ILC→最終処分場？
---滝沢市 RMC、ILC の市民運動から見えてくるもの---

2025. 6. 14(土) 14:00
主催 一関街づくり協議会
会場 一関市文化センター
三陸の海を放射能から守る
岩手の会 永田文夫

危険なアルファ線(以下α線)、放出薬品の製造が
一関市で行われようとしています

* α線は放射線の一つですが、ガンマ線やエックス線のような電磁波と違い重い粒子線です。

そのため体に取り込んでしまうと周辺の細胞の遺伝子を壊し細胞を殺してしまいます。

危険なために医薬品としては使用できなかったのです。しかし 2015 年 4 月バイエル社(本社ドイツ)が前立腺の末期がん患者の延命薬品としてα線放出薬品(品名:ゾーフイゴ)を国へ申請し、2016 年 3 月厚労大臣が許可し、その年の 6 月から国内の病院で使用されています。これと同じα線放出医薬品(まだ名称はなく医薬品申請も行われていません)

が一関で製造しようとしているのです。両方ともラジウム 226 に原子炉や加速器で中性子を当てて製造します。ノバセルはラジウム 223 ではなくアクチニウム Ac225 を主成分とし使用します。

混入する Ac227 は最悪の物質: 製造の副産物として Ac227(半減期 22 年)という毒性(吸入)が放射性物質の中で最悪の物質(2 ベクレル Bq を吸入すると年摂取限度 1 ミリシーベルト被ばくする)が副生し薬液に混入してきます。例えばゾーフイゴ 1 本 5.6ml には Ac227 が全体の 0.014%(860Bq/本)が混入し体重 60kg の人には 3ml 注射し、残液 2.6ml は廃棄されその中には Ac227 は 400Bq 含まれ 6 回注射しますので 2400Bq(1200 ミリシーベルト 1200 人分の年摂取限度)が廃棄されます。液 1 滴(0.05ml)でもこぼすと約 8 Bq(4 人分の年摂取限度)含まれ汚染されます。

☞ 滝沢市 RMC(医療用放射性廃棄物処理工場)では前柳村市長は市の放射線監視委員会でのことを知り 2017.3 ゾーフイゴ廃棄物の搬入を断りました。RMCへ搬入を許可されていたベータβ線、ガンマγ線放出医薬品とα線医薬品ゾーフイゴ廃棄物と医療機関で分別されないまま使用されたので、協定に基づき RMCへ医療廃棄物の搬入ができなくなり開店休業状態が継続しています。

☞ α線放出医薬品の危険について 2017.1.26 に市民 4 名で厚労省担当者 4 名との意見交換会を川田参議員事務所で開催しました。以下わかったことです。

- ① 戦後世界初のα線医薬品、混入する毒性最悪の Ac227 等の患者家族や公共への影響や、安全を確保するための議論がなされないまま医薬品として承認されていた。
- ② 45 カ国で承認、しかし 2015 年 5 月時点で世界で使用されているのは米国だけであった。
- ③ 薬品の添付書に「DNA 二重鎖切断による遺伝子異常、周辺細胞への影響」と記載あり。
- ④ 静注された患者の行動は自由、家族幼児妊婦の被ばくや、排泄物火葬場等汚染対策なし。
- ⑤ 薬価が高額 1 回 68 万円、6 回静注合計 408 万円、保険医療財政への影響について回答なし。
- ⑥ 審査委員利益相反額(医薬品総合機構 PMDA 専門委員年 500 万円、厚労省委員 50 万円まで)審査委員が公然と大金(研究費等)を受け取り公正な判断ができるのか。回答なし。

* 患者の家族、病院関係者、下水処理場、火葬場等周辺住民等が被ばくし苦しむことがないように



ノバセル医薬品 2 名の臨床例だけで判断？！ 以下ノバセル HP から：<https://novaccel.jp/about>

- 2016 年にドイツのハイデルベルク大学病院でアクチニウム Ac-225 を使用した治療により、転移性前立腺がん患者のがんがほぼ消滅したと報告（2 名） ■わずか 2 名、正式な報告ではない。
- Ac-225 は短い距離で高エネルギーのアルファ線を放出し、特定の分子に結合することでがん細胞を選択的に攻撃するため、様々ながん治療への応用が期待されています。 ■期待レベル！
- Ac-225 は世界的に供給が不足しており、供給体制の構築が課題です。我が国では、2024 年 6 月 21 日に閣議決定された「骨太方針 2024」で医療用ラジオアイソトープの国産化に向けた体制整備が明記され、アクションプラン（2022 年原子力委員会決定）に基づき取り組みが進められています。 ■閣議決定 3 日後にノバセル（医療用 RI 製造販売株）設立、国と連携、国の狙いは？
- ノバセルは、医療と加速器の専門家が連携し、独自の小型加速器で Ac-225 を製造する技術を研究・開発し、世界中のがん患者に新たな治療の希望を提供することを目指す。 ■研究開発のレベルである。これから独自の加速器を作るとは！あまりに泥縄です。

☞ゾーフィゴは第一相試験 2001.8～2003.6（31 例）、第二相試験 2004.2～2007.5(64 例)

第三相試験 2008.6～2010.10（921 例）を実施しさらに米、EU でも国内での試験をしてから承認されています。ノバセルが予定している Ac225 新薬品も相当の臨床使用例を経なければ承認されないと思われます。しかしこの危険な薬品を臨床で使用できるのでしょうか。

☞まだ計画レベルの製造工場です。薬品の開発は新薬が販売できるまでにかなりの年数がなければなりません。ノバセルの名前からノバルティス（スイス）の製薬の子会社として出発するのかもしれませんが。さまざまな科学的ノウハウを持っている会社が親会社になればこのような計画が出てこないように思います。超危険な α 線放射性物質（壊変し気体ラドンにもなります）を扱う会社です。一関市で住民説明会を求め、安全等納得のいくまで質さなければなりません。

.....

放射性物質を扱う事業所（原子力ムラ）が信頼できない理由 <地元の人々への愛がない>

- 1 滝沢市 RMC（ラジオメディカルセンター：医療用放射性廃棄物処理工場）の市民運動から
RMC は日本アイソトープ協会が事業主 滝沢市一本木で 1987.6 から操業
○ 町田常務理事 RI 廃棄物の処理体制 日本アイソトープ会議報告集 1978 年から
「日本アイソトープ協会が原子力安全委員会の指導と協力のもとに土地を選び、財団法人として RI 処理施設をつくろう。そこでは当初医療用 RI だけを扱うが、やがて研究用 RI も含めていきさらには、原子炉規制法の改正を待ってーというのは原子炉廃棄物と一般放射性廃棄物をいっしょに扱う法的根拠は今はないのでー原子炉廃棄物を取り扱うようにする。」
→事実この通りで RMC 操業 8 年後に研究用廃棄物の話が出て拒否されてもまた出てくることになりました。市民運動に村長が応え拒否し、医療用だけで留めてくることができました。
- 2 ILC 国際リニアコライダー計画 以下高レベル放射性廃棄物処分シンポジウム議事録 2010.12.17 から
○ 基調講演増田寛也前岩手県知事：「・・・要は、首長というのは権力を持っているわけで、きちんとした手続をとれば、住民が幾ら反対しても、その権力行使は理屈としては可能であります。・・・」
○ 宮田俊範中国新聞経済部長。「・・・だからこれがあるから手を上げるんですよという。極めて極論で I L C なんて書きましたけれども。これは、要は約 40 キロの直線の加速器の話ですけれども、これなんか（最終処分場と）セットで来ると、これは世界の拠点です。まさしく、ジュネーブの CERN の 27 キロの LHC じゃないですけども、そうしたものが、ちょっと象徴になるようなものがあるといいのかなと。これはちょっと夢ですけども。・・・」

私たちが安心し、心豊かに暮らせる地域・社会・国へと声をあげましょう。福島原発事故を見てわかるように黙っていても酷い目にあいます。見聞を深め“できる範囲でやれることを”実践していきませんか。

* 当日使用するスライドや資料は三陸の海・岩手の会の HP にアップします。ご覧下さい。